

あびの文化

発行人 美崎大洋
我孫子市 高野山
250-23
04(7182)
0861

プロジェクト報告会&懇親会を 開催します

- 日時 十月三十一日(土)午後1時〜4時半
- 会場 けやきプラザ9階ホール
- 参加費 1500円(飲み物、茶菓・つまみ付き)

昨年にも続き今年もプロジェクト報告会を開催します。活動中の各プロジェクトの進捗・内容の報告は勿論ですが今回も会員同士の懇親・親睦を重視した運営を考えていますので、新しく会員になられた方、今まで参加できなかった方も是非お越し下さい。

なお、今回のプロジェクト報告会のお知らせについては従来のように改めて「往復はがき」での案内は致しませんので、「出席いただける方は次による方法にてご連絡ください」。

電話&FAXによる 04(7182)0861
メールによる mss_misaki@yahoo.co.jp
mss_misaki@bbs.ndn.or.jp (メンバー専用)

「我孫子市民活動メッセ」に出展、参加

9月26日(土)、27日(日)にけやきプラザにて開催された市民メッセに我孫子の文化を守る会は参加した。今回はメッセ実行委員会が担当する「あびの活動メッセ」と我孫子市が担当する「我孫子のこれからフォーラム」が同時にけやきプラザで行なわれた。両日ともほぼ好天に恵まれ客足も上々。会場では各団体の展示のほか、舞台でコーラスやハワイアンダンスなどが行なわれた。

当会はそのそれぞれのテーマに沿って次の通り両日にわたり展示、参加した。

- ・市民活動メッセ「我孫子にきた白樺派の人々」その絆「けやきプラザ2階ホールで展示

(内容)大正初期に我孫子には柳宗悦、志賀直哉、武者小路実篤、バナード・リーチなど白樺派の文人が住居を構えまたは集まり「白樺村」ともいえる様相を呈した。当会の展示では嘉納治五郎から始まるその流れを一枚の大きな用紙で表現した。他の団体が展示の文字や絵が小さく、近くに寄らないと読めなかったのに比べ、当会の展示は遠くからも良く見えて分かりやすいと好評だった。また「白樺派についてあなたはどれだけ知っていますか?」というクイズで白樺派についての理解を深めて貰った。



「我孫子のこれからフォーラム」

(まち歩きで、我孫子の魅力を発見「白樺派のおもかげをたずねて」でコースガイドを担当
(内容)26日は午後から、27日は9時半から我孫子駅から出発して我孫子の史跡をガイド。テーマは白樺派であったが、それに限らず周辺の観光スポットを案内した。最後は志賀直哉邸跡と白樺文学館で解散。「まち歩き」でも白樺派について参加者の理解を一層深めることができたのではないだろうか。



訃報

永い間当会の役員を務められ当会の発展に功績のあった田口フミ氏が8月15日に逝去されました。89歳でした。葬儀は「あびの会堂」で行なわれ当会からも役員を初めとして、生前親しくされていた方々が参列しました。ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

田口フミさんを偲ぶ

美崎大洋

8月のある日、田口さんのご子息から電話があり訃報を知った。そのつい1ヶ月前市役所の前の道ですれ違い、とてもお元気な姿で「病院で薬を貰ってきました」とお声をかけてくれたばかりでした。あまりに急なことなのですぐには信じられなかったというのが正直なところでした。

田口フミさんとは「十数年、お互い役員という立場だったことから隔月の役員会で顔を合せていたが、平成二十年から始まった「百人一首を楽しむ会」で毎月ご一緒させて頂いた。田口さんは短歌には造詣も深く、古典としての百人一首の歌に対比させて自ら詠んだ短歌を披露してくれることも多く、特にNHKに投稿して採用された歌などをさりげなく皆の前で詠んでくれたものだった。

また「手賀沼の自然と親しむ会プロジェクト」でも毎回健脚振りを発揮し仲間を驚かせていたと聞いた。

1年ほど前から「もう私は90歳ですから」を口癖のように言われていて、永年続いていた車運転も止めた。90歳と言われたのはいわゆる「数え年」だったことを葬儀の際に知った。年齢的には私より上で、会員としても大先輩であったが、私もつい甘えてしまい、何も思返しができなかったことが今となっては悔いが残る。

「ジャイアンツ」が勝った時に飲むビールは格別美味しいと言われたのを、「虎キチ」として悔しい思いで聞いたのが今は懐かしい。合掌。

追悼 田口フミ様

「あついでんまきい」

三谷 和夫

文学掲示板始まりてより変はるなくついに逝くまで役を果たしき

会報を街のをちこち配らむと車に我を運びて飽かず
三越に働かし日を君は言ひきその若き姿見まほしかりし

手賀沼にしたしむ会を君はつくり月々友らをいざなひたりき

志賀直哉邸の椿に共に肥やし入れき白き花咲けばかの日思ほゆ

み子はつひに社長になりぬと聞きたりき弁達者と笑まひ言ふ君に

東京歌会に君と並びて学びたるもつひにかなはぬこととなりぬ

長く掌に伴ひたりし我と君を夫婦なりと人らからかへるらし

飾ることなかりし君のつひの化粧に秋田女性の面影しのぶ

花溢るる棺に眠る君を蓋におほむとして涙にじみ来

（プロジェクト報告）

関東建築探訪（第28回）

江「横浜山手西洋館を訪ねる」

藤井 吉彌

江戸湾に面した寒村の横浜に1853年（嘉永6年）ペリー艦隊が来訪し、日米和親条約が結ばれると戸圏初の外国人居留地になり、急速に西洋化が進んだ。パン、牛乳、ガス灯、水道等西洋の新しい文明が横浜から日本中に広がった。

外人の住宅は、初期には居留地に限定されていたが次第に緩和され、高台の山手地区に建てられた。関東大震災で多くは被災したが、修復したもの、その後建てられた外人住宅が山手通り沿いに残されており、独特の雰囲気醸し出している。今回は6月24日（水）、10人で文明開化の匂いを訪ねた。

JR石川町の改札を出ると、目の前の高台頂上に、尖がり屋根が目立つ「外交官の家」が聳え立ち、異国を感じさせる。この建物は明治の外交官が渋谷区南平台に建てたもので、終戦後横浜に移築された。国の重文に指定されている。訪ねた日が定休日、内部は見学出来なかったが、外観だけでも外人住宅らしい様式が感じられた。次に同じイタリア山庭園にあるブラフ18番館を訪ねた。赤瓦に白漆喰の、窓の大きな外観が如何にも外人住宅らしい。



クラブ18番館

外交官の家

ペーリック・ホール

山手通りを、最近建てられた高級住宅に目を配りながら

ら10分ほど歩くと、昔寄宿舎として使われた、山手最大の外人住宅ペーリック・ホールがある。スペイン風外観で、設計はこの地区に多くの住宅を設計したJ・H・モーガン。昭和5年の建築であるがトイレは水洗になっていた。

この後山手カトリック教会、エリスマン邸、山手山番館等を見学、「港の見える丘公園」から元町経由、関帝廟でお詣り。大栈橋に近い横浜開港資料館（1854年日米和親条約締結の地）で開港時の興味深い資料を拝見し、本日の探訪を終了した。

関東建築探訪（第29回）

「建築座学―五輪競技場のコンペ白紙、地震豆知識」

藤井 吉彌

① A 五輪競技場のコンペ白紙化を考える

今回の競技場のデザイン設計はイラクの女性設計者ザハ・ハデイドに決まった。その立場は競技場のデザイン提案者で、この後のプロジェクトはザハのデザインに基づき改めて実施設計者を決め、進める計画になっていた（ようだ？）。ザハ案を1等当選とした2013年3月19日の表彰式の席で、国立競技場将来構想有識者会議佐藤禎一院長、政府から遠藤五輪大臣、安藤忠夫審査委員長出席の元に、日本スポーツ振興センター河野理事長から賞状とトロフィーが手渡された。

ところがその後、工事が予算の倍以上になる、工期が間に合わない、敷地に収まらない、等の指摘が続き、このプロジェクトの責任者は誰だという話になり、白紙やり直しとなった。

しかし新しいやり方を決める前に、これまでのやり方の何がまずかったかの反省がまずなければならぬ。その上で、デザイン、工事費、工期、をプロジェクトのトップが、残る時間内で決定、実施できる体制を整えることが急務だ。以下に過去のビッグプロジェクトを成功させた設計者の事例を述べる。

②前回1964年の東京五輪代々木体育館の経過

日本初のオリンピック開催で、国を上げての準備が行われた。最も注目された施設は室内競技場で、丹下健三をチーフとする設計者が指名された。当時丹下は50才、既に日本を代表する建築家として世界的な評価を得ていた。丹下の頭にあったのは、柱が一本もない空間、観客が建物の形により視線を制限されない設計であった。その空間を施工可能な建物の構造体として

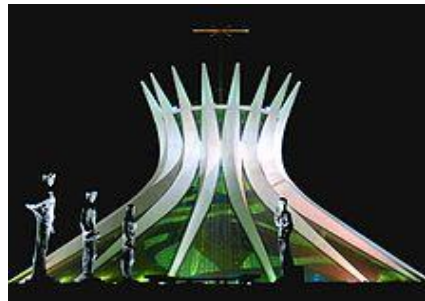


実現する担当を、名コンビの東大教授坪井善勝に任せた。その結果、吊り橋に使うメインケーブルと直角方向にサブケーブルを張り渡すことにより、柱が無い大空間を実現させ、世界初のワイヤーで屋根を支える建物が出来、ワイヤーを使う画期的な造形に道を開いた。(写真は代々木体育館(丹下健三設計))

新しい首都の主な建物を一人で設計したブラジル人

ブラジリアはブラジル南部の未開の地を切り開いて造った新首都。1956年から建設を始め、主な建物が竣工した1960年にリオデジャネイロからの遷都が行われた。主要施設の設計者はオスカー・ニーマイアー。若いフォル・ムルビジェの下で国連本部の設計に携わり、その才能高く評価されていた。クビテック大統領の私邸を設計した関係から、政府施設の設計者に指名され、国会議事堂、最高裁判所、大統領官邸、三権広場、ブラジリア大聖堂等を次々に設計した。それら

の建物は曲線をうまく使い、新設の首都に豊かさを与えている。細部を見ると、決して上等とは言えない出来であるが、街全体が発展のエネルギーに燃えていることを強く印象付けている。



ブラジリア市中心部

ブラジリア大聖堂(設計オスカー・ニーマイアー)

B 地震豆知識

① マグニチュードと震度の違い

マグニチュードは震源地の地中で地層が動いたために発生したエネルギー。震度は震源から、ある地点へ伝わったエネルギー。震源に近いほど大きい。

②地震は何故起こるか

地球の表面はプレートと呼ばれる厚さ10kmほどの10数枚の岩盤で覆われている。各岩盤は年に数cmの速さで移動しており、岩盤毎に動く方向が違うので、岩盤同士がぶつかり、相手の下に潜り込んだり、相手に乗り上げたりする。その時、岩盤同士に摩擦が生じ、摩擦力が耐えられなくなった時に岩盤が相互に動く。これが地震である。その他、地球の中心にあるマントルと呼ばれる液状になった鉱物が岩盤の弱い所から地上に吹き出す火山性地震もあり、日本に多い。

③活断層

福島原発事故を機に新設された原子力規制委員会

で、原発の様々な部分の安全性が検討されたが、最も問題になったのが地盤の安定性であり、活断層がある場合はその活動が長期にわたって起らない(11万年)ことを条件にした。(日本列島に人類が来たのは3万年前)

次回の関東建築探訪(第30回)の案内

横浜山手地区 ② 10月20日(火)6頁参照

我孫子市の巨木・名木を訪ねる会(第2-7回調査報告)

佐々木侑

梅雨真っ最中からそろそろ終焉を期待したいこの頃であるが、台風9、10、11号と列島に集団で近づき、梅雨前線が本州に停滞中で雨の危ぶまれる7月9日(木)、湖北駅に9名(男性6名・女性3名)が集合し第2-7回目の巨木名木調査が実施された。この日、途中から雨が降り出したために調査を断念、未実施分は次回の8月調査に延期した。当日の調査行程は

湖北駅北口5:00(出発)↓旧法照院↓龍泉寺↓照妙院不動堂↓中里薬師堂↓湖北駅↓解散10:30
【行動時間:1時間30分、調査樹木本数6本・巨木本数3本、参考樹木3本】

青年館「中峠上集会所」旧法照院 (中峠1433)

旧法照院(廃寺)の境内。真言宗宝霊山法照院は安永四年(1775)以前に大日如来を本尊として建てられたが、明治初年に廃寺となった。

現在集会所の建物に仏間が設置され不動明王などが祀られ信徒によって守られている。(相馬霊場第二十八番)

06d、イチヨウ雄(樹高16.6m、幹周358cm)

龍泉寺・湖北保育園 (中峠1423)

真言宗南命山龍泉寺、真言宗豊山派、本尊・不動明王及び二童子。(相馬霊場第七十六番)

我孫子市域で最古の伝承を有する寺院であり、将門の天慶の乱のとき兵火によって伽藍が焼失したと伝えられている。現在の地に寺を移したのは天文年間(1532~155)の事である。

参考樹木031、ソメイヨシノ①本堂の手前左(樹高10.7m、幹周300cm) 樹頭樹枝伐採、

参考樹木032、ソメイヨシノ②本堂の手前右(樹高8.5、幹周293cm) 樹頭樹枝伐採、

参考樹木033、モクセイ(ウスギモクセイ)(樹高11.7m、3株立)

照明院「中峠下公民館」と不動尊堂(中峠1401)

真言宗滝前山照明(妙)院、もと龍泉寺末、現在は廃寺であるが不動尊は礼拝する信者が多く不動尊堂が境内参道奥に在る。本尊は不動明王。(相馬霊場第六十番札所)

公民館建物は、大正初年の学校旧校舎建物の一部を移築したもの。

不動尊堂の裏手は児童公園と古墳があり、エノキ・ケヤキ・ムクノキ・アカガシが聳え、イヌマキ・ヤブツバキ・ソメイヨシノ等の樹木もある。

161、イチヨウ(樹高12.9m、幹周367cm)

162、ムクロジ(樹高17.1m、幹周327cm)
無患子(ムクロジ)は秋に果実が黄褐色に熟す。果皮にはサポニン(水に溶かすと石鹸のように泡が出る)が含まれ、洗濯や洗髪などに使った。種子は羽子板の羽根の重りや数珠に使った。

今回の調査予定コース(8月13日、9月10日共に荒天中止につき)

日時：10月8日(木)湖北駅 300 集合(我孫子駅発 8:55 成田線乗車)

湖北駅北口↓伊勢山天照神社↓中里村中野家↓湖北小学校北学童保育所↓湖北地区公民館↓日秀観音寺↓地藏院↓新木香取神社↓鎌倉道↓将門神社↓中里市民の森↓諏訪神社↓湖北駅↓解散

あびこだより 6号

「消防組織の変遷と私の消防生活」

稲葉 義行

消防組織の変遷を江戸、明治、大正、昭和の戦前と戦後に分けて説明、その後にはわたくしの消防生活をお話ししました。内容は以下の通り。

一、消防組織の変遷

(一) 江戸時代

日本の消防組織は、江戸時代の火消制度が起源とされている。火消制度は大名火消、定火消と町火消からなっている。

大名火消：江戸城を火災から守るため、寛永六年(一六二九年)大名に火の番を命じた。

定火消：一七世紀の中ごろ、江戸城及び武家屋敷を火災から守るため、旗本に火消し役を命じた。

町火消：享保四年(一七一一年)町奉行大岡忠相が町火消の制度を定め、隅田川から西を「いろは」四十八組に分け、本所・深川に十六組を設けた。

江戸時代の失火と放火の処罰と取り締まりは、火については、比較的緩やかであるが、放火に対しては火焙りの刑など厳罰をもって臨んでいた。火災の取り締まりは、町奉行の管轄であるが、十七世紀中ごろに火付け盗賊改めが設置された。

また、江戸の三大大火、江戸以外の京都、大阪他各藩の消防組織及び我孫子村の火災記録についても説明を行った。

(二) 明治期

町火消は消防組と改称した。消防業務に専従する消防職員を採用し、官設消防となった。

蒸気ポンプを輸入して消防装備の整備強化を図った。明治二十一年に火災保険会社が発足した。消火栓が整備され大火が減少した。

(三) 大正期

ポンプ自動車を輸入して、各消防署に配置した。火災専用電話を架設するとともに、火災報知機を街頭に設置し、火災通報の迅速化を図った。また、地方都市にも官設の消防署を設置し、組織の強化を図った。

大正一二年には関東大震災が発生し、東京周辺は甚大な被害を受けた。

四、昭和前期

昭和時代の火災は、一般住宅から大規模建物火災に移ってきた。その代表的な例が、日本橋白木屋、デパートの火災である。昭和初期の消防で画期的なことは、交通事故の急増により、横浜、名古屋及び東京で救急業務を開始したことである。

五、昭和の戦後(自治体消防の発足)

GHQの要請により、これまで、警察機構に包含されていた消防は、昭和二十三年三月七日の消防組織法施行により、市町村が管理する自治体消防となった。

江戸時代に町火消は、明治に消防組改称され、昭和一四年には警防団となったが、終戦により廃止され、消防組織法により、消防団となり現在に至っている。

二、わたくしの消防生活

(一)採用後の消防学校の生活、(二)消防署での勤務体制、(三)望楼勤務の辛さ、(四)火災現場での事故防止

あびこだより 6号

「樹木ごぼれ話」

小島 紀彦

平成16年の暮れに、森林インストラクターという資格があるのを知り、正月から勉強してその年の秋の試験に合格しました。森林インストラクターという資格は全国森林レクリエーション協会が年一度行う試験に合格した人に与えられるものですが、森や自然の案内人というか、森のしくみや人との係り、四季折々に花を咲かせる植物や野鳥の名前、生態などを理解して、その素晴らしさや楽しさを伝えるコーディネーター役

です。

同じように自然を知り、自然の大切さを守る日本自然保護協会の講習を受けて、自然観察指導員のメンバーにもなれました。資格は得ましたが、会社時代にはゴルフしか趣味のない男が、自然に接したりしても、名前も特徴もなかなか身につかず、所属の会や新聞のアウトドア蘭などの催しに参加したり、自然に接する会のメンバーになつて関東近辺の山や里や公園などを歩いたり、植物園に通つたり、勉強会、研修会に熱心に出たりして、その都度、図鑑と首つびきの状態で、関連の本も読んで覚えるようになってきました。どれほど知り得たか分かりませんが、10年前よりは幾らか樹木や植物の知識は増えたと思つています。

今回の「放談くらぶ」では、花や実や葉の形や色がどうかとか、名前は何かとか、どう見分けるのかという生態的な事柄でなく、私が集めた情報や知識の中から、身近にある樹木15種について、図鑑に出ていない、普段あまり聞かない事を、説明資料はありますがスライドにしてビジュアル的に見て貰いながら話をしたく考えております。

内容的には、これらの樹木に関しての実話、逸話、昔話、ことわざ、小説、和歌・俳句から美術品など一般的な話ですので、「興味のある方はお気軽にご参加をお願い致します。」

第120回 史跡文学散歩のお知らせ

「紅葉の自然教育園、上大崎寺町、池田山周辺を訪ねる」

池田山周辺を訪ねる

自然教育園は中世に白金長者の館と伝わり、園内に当時の土塁や館跡が残り、江戸期には高松の松平家の下屋敷でした。維新後は軍の火薬庫となつたため開発を逃れ、豊かな自然が残りました。上大崎地区には十一のお寺があり、その寺の中には増上寺の隠居寺が多く、芹沢鮭介、伊東深水などの菩提寺があります。岡山池田家の下屋敷のあった池田山周辺は息を飲む美しい紅葉と高級住宅地があり、美智子皇后陛下の実家跡にある公園「ねむの木庭」も案内します。

1. 日時 11月29日(日)9時、我孫子駅改札口内集合

JR目黒駅まで切符を購入。現地15時頃解散(雨天中止)

2. コース 自然教育園→上大崎寺町→池田山公園

↓ねむの木の庭→五反田駅で解散
昼食：外食(各自負担)

講師：ガイド 越岡禮子氏(当会副会長)

参加費 会員：無料 非会員：5000円

申し込み TEL & FAX (7184)2047 越岡まで

会員からの投稿

「JUSTICE」

三谷 和夫

① 戦争を招いてはいけない——安保法案

8月15日は敗戦の日です。70年前に戦争が終り、ずっと平和だったのです。

憲法9条のおかげと言えるでしょう。しかし、世界の状況が大きく変わり、日本が一国だけで国を守るのはむづかしいといわれます。そして安保法案はすでに衆議院を通過してしまいました。国際紛争を解決する段階で武力が使いやすくなり、戦争に近づきつつあるように思います。アメリカ軍の戦争地域で日本の自衛隊が後方支援のために出かけていくことが起こりそうです。後方支援とは敵側からみて攻撃対象でないとは言えませんが、突然空や海から攻撃されることがあり得ます。テロ攻撃も心配です。アメリカ軍の戦争が長引いたりするといく所かで後方支援に行き、攻撃にさらされることにならないとも限りません。敵側がアメリカの同盟国だとして日本を攻撃することになったら大へん心配です。戦争はさけるつもりでも引き返すことが出来ぬ恐れもあります。歴史に学ぶべきではないかと思ひます。我孫子市議会は安保法案を廃案にする請願に対して17:3で否決しました。我孫子市の皆さんはどのようにお考えでしょうか。

② 国民は知らされているか——核の心配

8キロで原爆が作れるというプルトニウムを今、日本は48トン保有しているとのこと。原爆約6000発分です。私は知りませんでしたが大へん心配です。政府の「核燃料サイクル事業」で燃料として使うためのようです。核燃料サイクルは中々複雑でむづかしい問題があり、うまく予定通り進行していかないのです。プルトニウム保有は、世界から核兵器計画を考えているのかと

疑われたり、またテロ攻撃の目標にされないとも限りません。政府の計画は白紙に戻すべきだともいわれます。日本のエネルギー問題で原発再開が進みそうです。経済的に有利とか、地域の活性化のためとか言われています。そして原発が動けば、いわゆる核のゴミが当然発生します。

このゴミは深いところで埋めるともいわれます。それでよいか、核のゴミは増える一方ではないのか、その問題を安全に解決しないまま、原発を次々と動かしてもよいか、大変心配です。

核燃料サイクルについては、朝日新聞 15・7・27 社説を参考にしました。

(2015・8・3記 三谷和夫 86歳)



「あなたは間違つて使っていませんか？」

(間違いやすい語句の例 上(誤)→下(正))

預かり知らぬ→与り知らぬ 稀に見ぬ→稀に見る
既製事実→既成事実 蘊蓄を垂れる→蘊蓄を傾ける
後ろ立て→後ろ盾 上司の決済→上司の決裁
ご他聞にもれず→ご多分にもれず 崖つ淵→崖つ縁
肝に命じる→胆に銘じる 襟元を正す→襟を正す
必見の価値→一見の価値 論旨免職→諭旨免職
油断を許さない→予断を許さない
業績悪化は必死→業績悪化は必至 固定概念→固定観念
ご静聴ありがとうございます→ご清聴ありがとうございます
ご静聴ありがとうございます→ご静聴願います」と使う)

楚人冠俳句「序跋詩歌集」より 杉村楚人冠

昭和七年冬

住吉の石燈籠にしぐれけり

動かじと牛のむづかる時雨かな

葛飾の野は茶の花に明らけく

落葉はけば箒にからむ一葉かな

傘を傾けておとす落ち葉かな

かすかなる手答へ傘に落葉かな

落葉たくやたき添へながら背きけり

爐の灰の白々浮けり火なげなる

爐にかざす伯父の手わきてむくつけき

爐を圍む手の品さだめ一しきり

北海のはなれ小島の冬至かな

短日やレール鋸(ひ)ききる小鋸

今年度会費(二千円)納入のお願い

本会(ひとえ)に会員皆様方の会費によって運営されていきます。郵便振替口座(00190-3-135476)『我孫子の文化を守る会』宛お振込みください。

今後の行事予定

□ 放談くらぶ

日時 10月3日(土) 14時〜16時

会場 アビスタ 第2学習室

講師 小島紀彦氏

演題 「樹木こぼれ話」

参加費 (会員無料 非会員300円)

(講師自己紹介)私は昨年4月からこの会の会員になり、毎月幹事の佐々木さんのご指示のもと、市内の巨木調査に参加させて頂いております。会社生活を12年前に卒業しましたが、卒業に当たって老後を充実した生活するには何か趣味をつくらねばと、幾らか植物に詳しい友達に誘われ、野山を歩いていくうちに知らず知らずに樹木や草花に興味を持つ

ようになつて、凶鑑を買ったり、写真を5撮ったりして、それなりに自然と触れ合う機会が増え、生きがいらしい方向ができました。

□ 放談くらぶ

日時 予定 12月5日(土) 14時〜16時

会場 我孫子北近隣センター(並木 第3会議室)

講師 伊藤一男氏

演題 「幕末の密航留学生の足跡を訪ねる…」

若き志士たちが築いた日英交流の歴史」

参加費 (会員無料 非会員300円)

□ プロジェクト

◆ 我孫子市の巨木・名木を訪ねる会

日時 10月8日(木) 9時湖北駅集合

(詳細は4ページ参照)

◆ 関東建築探訪(第30回)

日時 10月20日(火) 9時我孫子駅集合

場所 横浜山手地区①②三溪園他

□ プロジェクト報告会&懇親会

日時 10月31日(土) 13時〜16時30分

会場 けやきプラザ9階ホール

参加費 1500円(飲み物・茶菓つまみ付き)

□ 当会の最近の動き(報告)

◆ 市民活動メッセ

9月26(土)・27日(日)

(詳細は1ページ参照)

◆ 散歩部会

9月27日(日)第119回史跡文学散歩

「取手宿を訪ねる」

◆ 手賀沼部会

6月10日(水) 9時45分手賀沼の自然と親しむ

同日 13時〜14時45分 アビスタ小ホール

美手連総会

同日 14時45分〜同ホール

記念講演会(演題)「手賀沼の現在・未来を学ぶ」

講師: 瀧 和夫氏

その他、理事会、運営委員会等開催

◆ 研修部会

8月9日(日)放談くらぶ

「消防組織の変遷と私の消防生活」

(詳細は4ページ参照)

(広報部会より)

当会のホームページがフォームもこのたび久しぶりに更新されて再スタートしました。

URLは <http://abikonobunka.sakura.ne.jp/> またはキーワード「我孫子の文化を守る会」では非検索してください。当会の紹介や最近主な動の情報がご覧になれます

短歌「応募のお礼

八月末を期限として募集しました「文学掲示板」に掲示する(会報にも)短歌について、8名の方から合計35首の応募がありました。ご協力ありがとうございました。なお掲載については来年の1月以降を予定しておりますのでさらなる応募も歓迎します。(飯高)

前号記事訂正

(入会者紹介)にて 芦崎敬巳、荒井利雄、岡嶋久彌(以上3名 敬称略)とありましたが、荒井利雄は誤りで、正しくは、「新井利雄」でしたお詫びして訂正します。

編集後記

永年に亘り当会活動にご尽力いただいた、田口フミさん、お疲れさまでした。安らかに眠りください。

ところで、本会報発行を目前にした先日、「安保法案」が全くにして無茶な流れで国会議決。眼を覆いたくなる光景。憲法学者・法曹界、国民の大半が異口同音に無効を唱える。この国の行く末がますます案じられます。今はこの国をリードするに相応しい人物の、早々の登場を可能にする、国民の意識と行動が正に必要と痛感した次第。自然現象も異常が続く昨今、平和で温かな社会の到来を切望して止みません。(牧田)